

宮島口地域防災会・総合防災実施・兼ねて防災係研修会

大野一区防災部会長 野田 崇

訓練のテーマ 大型台風接近により、台風被害・高潮被害を想定した防災訓練

参加者 宮島口1・4丁目23名 2・3丁目18名 防災係29名

支援団体 大野支所2名 廿日市警察署警備課2名 消防団12団7名

(大野消防署は、経後屋山で事案発生出動のため出席出来なくなりました)

スタッフ 約50名

前日の準備を終え9月8日(日)好天気のもと、9時より宮島口地域の総合防災訓練が始まりました。避難所開設訓練・支援各所(署)連絡訓練・自主避難連絡訓練と続き、10時の大野防災放送による「避難開始」を合図に、宮島口地域の参加者は一斉に自動車により、大野東市民センターに向けて避難を開始しました。

避難開始に先立ち、防災係研修会参加者には10時までに大野東市民センター集合してもらい、避難者の到着を見守って頂きました。

10時15分から、広島気象台出前講座を予報官の日野 学さんから「台風による豪雨・土砂災害・高潮被害」と題して、講演をしていただきました。

講演内容は次の通りです。

講演のまとめは副区長島啓二さんです

出前講座後、大野支所防災係により「支所の役割と取組みについて」廿日市警察署警備課より「災害時における警察の役割と取組み」について、お話をして頂きました。廿日市警察署警備課の「被害を出したくない強い思いがある」目標と覚悟が印象に残りました。

体験訓練は、宮島口地域参加者と防災係研修会参加者のグループ別に消防団12団が、消火訓練と煙体験を防災部会長が、防災倉庫に備蓄する救護救出資材・機材の使用方法・取り扱い方法について体験をしました。

体験訓練を終了して、給食給水訓練班が作った非常食(炊き込みご飯とみそ汁)を食べました。

## 講演の纏め

### 宮島口地域防災訓練・研修会

2019年9月8日(日)

#### < 出前講座 >

講師:日野さん(広島气象台)

- ・今年の台風15号は暖かい南の天気をもたらしてきた。広島では今まで雨が降り続いており、土砂崩れの危険があったため、雨が降っていなかったが大雨警報を発令した。
- ・危険度分布についてはインターネットが利用できる方は出来るだけ利用してもらいたい。
- ・天気予報を見る注意点として、雷警報には特に注意。
- ・平成30年の台風21号は関西空港の橋にタンカーがぶつかるといった大きな高潮被害を出した。

この時の大阪の潮位は通常(台風が来ない時)よりも2m70cm高くなっていた。このタンカーはアンカを下ろしていたが、残念ながら流されてしまった。

- ・台風の高潮の特徴

① 吹き寄せ効果・・・台風の風により海水が吹き寄せられる。

② 吸い上げ効果・・・気圧が1hPa下がると潮位は1cm上がる。

この二つの効果により、酷い時は津波のようになる。広島においては台風が西よりのコースをとる時吹き寄せ効果があるため注意必要。台風が浜田沖にある時被害が大きくなる傾向。

- ・台風の東側では台風自身の風と台風を動かしてくる風とが重なるために風力は強くなる。

令和元年の台風10号は呉に上陸した。特徴として台風の目は大きく雲もばらついていた。また、四国を超えてくる雨雲もなかった。結果として雨は少なかった。

- ・台風と前線が重なる時は雨が多くなるため注意が必要。
- ・観測精度が上がったため気象庁の出す台風の予報円が小さくなっている。
- ・大雨警報は土砂災害危険がある時に発令。土砂災害警戒情報は大雨警報の後2～3時間後に逃げる時間を考慮して出す。
- ・特別警報はかつて経験したことのない災害、50年に一度あるかどうかの災害の危険性が予想される時に発令。

以上